

「花粉カフェテリア 2016 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今年も5年生で花粉の観察をする時期がやってきた。花粉の観察は、何らかの花のおしべから採取したものを観察するのが良い。しかし、ここ2週間は非常に天気が悪く、それも難しい状態だった。そこで、今年も「花粉カフェテリア」をすることにした。



「花粉カフェテリア」では、教材として市販されている、花粉のプレパラートを使う。7種類10枚ずつあるので、30人弱の5年生のクラスには十分な量だ。種類は以下の通りで、観察の順番は自由である。

【風媒花粉】スギ、マツ、トウモロコシ、イネ

【虫媒花粉】カボチャ、アサガオ、ユリ



顕微鏡で観察する前に、まずは肉眼でスライドをよく見てみる。ユリやカボチャなどの虫媒花粉は、比較的大きく、また観察しやすいように染料で染めてある

ので、肉眼でも一粒一粒が判別できる。しかし、スギやマツは非常に小さいので、「たくさんある」ことしかわからず、人間の目では粒を見られる分解能はない。



幸い本校では、顕微鏡を一人一台使える。充電式のLED光源付きなので、100倍の倍率で、花粉が鮮明に見える。しかし、顕微鏡によって個々のクセのようなものがあり、操作性が良く、鮮明に見える台と、そうでない台がある。賢い子どもは、よく見えた顕微鏡の番号を覚えていて、次回もそれを選んでいる。



よく見えた場合、よく見えない場合、いずれも「センサー・コール」がある。写真は子ども自身がフレーミングしてピントを合わせたものを、私が普通のコンパクトデジカメで撮影したものだ。メダカの卵の観察の経験が生きていて、慣れた手つきの子どもの多い。